

平成20年度 学校評価表

学校教育目標		重点目標(中・長期的目標)				
校訓 至誠創造 (純粋なまごころをもって、21世紀を生きる創造的な人間に育て欲しいという願いがこめられている。)		1 生徒一人ひとりの学力を伸長させ、希望する進路の実現を図る。 2 礼儀・挨拶・身だしなみの大切さを自覚させ、規範意識を高めさせる。 3 スポーツを通して明朗闊達な精神力を育む。 4 環境美化に積極的に取り組み、文化の香りが漂う学舎づくりに励む。				
教育基本法・学校教育法及び長野県立高等学校管理規則に基づき、特に次の項目を本校教育の目標として掲げる。		* 中野実業高校最終年度にあたり、更に地域に愛され期待される学校づくりを実践し、その良き伝統をふまえ新総合学科高校への円滑な移行を図る。 1 学力の向上を図る。(学習指導の充実、授業改善) 2 専門分野の学習に積極的に取り組む態度・意欲を育てる。(実学教育の充実、地域との連携) 3 基本的生活習慣の確立を目指す。(挨拶・身だしなみ、遅刻指導、環境美化) 4 キャリア教育の充実を目指す。 5 スポーツや文化活動による活力に満ちた明るい校風づくりを目指す。 * 達成度 A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善の余地がある D 相当の改善を要す				
1 学び究めようとする心の涵養に努める 2 よき産業人になるための人間性の陶冶に励む 3 心身共に活力のみなざる生徒づくり 4 生命を尊び人権を尊重する心を培う		(改善策・向上策) 本校全日制課程は本年度末をもって閉課程となる。本校で長年にわたって積み上げてきた実践的指導技術面での良き点や本学校評価における各分野の改善策・向上策は新総合学科高校での教育活動で生かされていくことを期待する。				
総合評価	(成果と課題:達成度(B)) 「今年度の重点目標」達成に向け、職員・生徒一体となって取り組んだ。その結果、中途退学者も激減し、多くの生徒が明るく伸びやかな学校生活を送ることができた。また、新総合学科と協調し滞りなく学校を運営することができた。					
領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度	改善策・向上策
教育活動	1 学習指導	・ 学習指導の充実 ・ 基礎学力向上のための授業改善	・ 生活学習実態調査の実施・分析等を行い、学習実態の改善に結びつけることができたか ・ 日常的な授業検証や生徒への授業アンケートにより具体的な授業改善がなされたか	・ 一学期中に生活学習実態調査を実施。生徒の生活と学習実態を把握し、7月下旬の保護者懇談会で活用することができた。 ・ 例年より早く10月中旬に授業アンケートを実施したことにより、教員が自らの授業を顧みて、授業改善に役立てることができた。	B B	・ 生活学習実態調査の集計結果から浮かび上がっている生活実態を今後の生徒指導に生かす。 ・ 授業アンケート結果を各自、真摯に受け止め、生徒の学習意欲をより高めるための授業研究に努める。
	2 専門科 商業科	・ 社会人・職業人として必要なマナーやコミュニケーションスキル学習の充実 ・ 各種資格試験・検定試験への対応	・ マナーやコミュニケーションスキル学習の重要性を理解させ、様々な場面で実践できる能力を身に付けさせることができたか ・ 意欲的に各種資格試験や検定試験に挑戦させ、成果をあげさせることができたか	・ 科目「総合実践」等において、コミュニケーションスキルやビジネス常識の学習に前向きに取り組ませることができた。 ・ 各種資格試験や検定試験に積極的に取り組む姿勢がみられ、全商検定1級3種目以上取得表彰者が8名でるなど、多くの上位級を取得させることができた。	B B	・ 一人ひとりの教師がアンテナを高くし、マナーやコミュニケーションの重要性をより深く認識させるための教材や話材を収集することに心がける。 ・ 学習意欲を高めさせる一手段として各種資格検定試験に積極的に挑戦する姿勢を醸成する。
	機械科	・ 機械技術者としての基礎能力の育成と応用力の育成 ・ ものづくりを通じた技能・技術の向上と創造力の育成	・ 授業で学んだ事柄を基礎に主体的に創意工夫しながら「課題研究」に取り組ませることができたか ・ ものづくりコンテストへの参加や資格取得を通して作品の完成度を高め基礎理論の積み重ねができたか	・ 科目「課題研究」などのグループ学習を通して創意工夫や問題解決に取り組む姿勢および協調性が身につく、年度末の発表会には協力して立派な発表が出来た。 ・ 資格取得にも意欲的に取り組む生徒が多く見られ進路実現にもおおいに役立った。	A B	・ 基礎学力の向上とともに、ものづくりへの興味と技術の習得・応用力を養い、年度末には学習成果をわかり易く発表できる能力を身につけさせる。 ・ 一二年生にも各種資格およびその取得に向けた学習の有用性を認識させ、積極的に取り組む姿勢を醸成する。
	電気科	・ 電気技術者としての基本的能力の育成 ・ 学科に関する資格試験・検定試験への対応	・ 基礎的内容のきめ細かい指導を行い、生徒間で協力し合う実技関連科目を通して、基本的能力を定着させることができたか ・ 補習等を含めた指導で、資格を取得させることができたか	・ 基礎科目ではきめ細かい指導ができ、科目「実習」及び「課題研究」においては自発的に協力し学習を進める生徒が増えた。 ・ 資格取得面では、既合格者に補習指導を手伝わせることにより効率的な指導でき、一定の成果があがった。	B A	・ 生徒の理解力や技術力向上に向けた指導を実践するため、職員研修やわかりやすい教材の開発に取り組む。 ・ 有資格者が級友を指導することは本人のレベルアップにもなるので、今後この補習形態を活用したい。
	土木科	・ 建設技術に関する基礎学力の向上と基本技術の習得	・ 力学・測量の基本的な計算を正確に理解させることができたか ・ 実習・課題研究に主体的に取り組むことにより、興味関心をより深めさせることができたか	・ 段階的な課題を与えることにより、個々の進捗を把握しながら指導することができた。 ・ 達成感を得られるよう具体的な課題を設定させることにより、主体的に取り組む生徒が増えた。	B A	・ 今まで積み重ねてきた学習指導ノウハウを立志館高校に引き継ぐ。 ・ 生徒の興味関心を引く教材の開発および授業展開の質的向上に努める。

領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度	改善策・向上策
教 育 活 動	3 生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみの確立 挨拶の励行 盗難の予防 	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画(実施方法)の立案、実施ができ成果が得られたか 全職員の理解と協力を得られたか 	<ul style="list-style-type: none"> 折に触れ指導を繰り返したが、一部には身だしなみが整わない生徒もいた。 登校時校門での職員による声かけなどにより、挨拶が多く交わされるようになった。 毎時間の職員による空き教室巡回による効果で盗難件数は激減した。 	<ul style="list-style-type: none"> B A 	<ul style="list-style-type: none"> 係、学年、学級・教科担任と連携して、身だしなみに乱れのある生徒には常に声をかける。 職員の率先挨拶を継続する。 空き教室巡回を継続するとともに、貴重品の自己管理を徹底する。
	4 保健環境特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 健康の増進 特別支援教育の充実 校内の美化 安全管理 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、職員が健康管理の必要性を認識し行動するよう取り組ませることができたか 特別支援教育の研修や情報提供ができたか。個別の事象に対応できたか 生徒会との連携により、校内美化が図れたか 生徒、職員が安全な学校生活を送ることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> 各種検診および校医による健康相談を予定通り実施した。 全校一斉の要特別支援生徒実態調査および、特別支援教育について理解を深めるための研修会を実施した。 教職員・生徒が協力し全校あげてゴミを分別収集した。 岳南消防署の指導の下、職員向けのAED取扱い講習会や防災避難訓練を実施し学校安全を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> B B B B 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な年間計画を立案し、計画に沿って実施する。 特別支援教育の理解をより深めるための研修会等を企画し、学年・学級担任と連携を図る。 全職員が一致協力してゴミ分別や校内美化のより一層の徹底を図る。 安全管理につながる校内点検や職員研修および訓練等を定期的に行う。
	5 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> よき産業人になるためのキャリア教育の推進 希望する進路の実現 	<ul style="list-style-type: none"> 専門高校の特徴を活かし、主体的に自己の進路と向きあえるようなキャリア教育を進めることができたか 学年・科・地域企業・上級学校と連携を深め、希望する進路実現に向けて努力させる指導ができたか 	<ul style="list-style-type: none"> 各専門教科を中心とした三年間の学習や職場体験学習及びキャリア講演会等を通じて、働くことの意味を考えさせることができた。 職場見学やキャンパス見学等を実施するとともに専門科・学年・進路係が連携をとりながら個別指導を繰り返し、多くの生徒に希望する進路を実現させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> B B 	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科高校におけるキャリア教育は学校の生命線である。地域事業所や関連機関等との連携を図りながらキャリア教育を充実させたい。 総合学科高校の特徴を活かし、地域事業所との連携を深め、進路の実現に向けて努力させることに努める。
	6 生徒会	<ul style="list-style-type: none"> 全員参加の生徒会 新総合学科高校との連携と円滑な移行 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの役割を明確化し、文化祭等への参加状況を改善することができたか 新総合学科学校高校生徒会と連携した生徒会活動を実践し、良き伝統を伝えることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりが自らの役割を自覚し、委員会活動や文化祭等生徒会活動へ積極的に取り組む姿が多く見られた。 各委員会の合同運営や文化祭の共同開催等、新総合学科高校との連携は円滑に進み、各種ノウハウを伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> A A 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生活における生徒会活動の意義を深く認識させ、委員会活動やクラブ活動および文化祭等の活性化を図る。 本校の生徒会活動運営ノウハウの優れている部分を新総合学科高校の生徒会活動に生かす。
	7 学年会 3学年	<ul style="list-style-type: none"> 自己伸長と適性にあった進路選択 自律心および社会性の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 希望する進路を実現させるべく自己伸長に向け努力させることができたか 最高学年としての自覚を持ち、より良い高校生活を送らせることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導係と連携し積極的な進路指導を心がけた。その結果、多くの生徒に希望する進路を実現させることができた。 最高学年の自覚を持って生徒会活動や課外活動に臨ませることができ、活動の中心となって活躍させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> B B 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の多様化に対応し行き届いた指導を実践するため、追跡調査を含めた進路先研究を充実させる。 高校生活の集大成としての学年として、思慮深い行動ができるような心構えと生活習慣を身に付けさせる。
	学 校 運 営	8 魅力ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 新総合学科高校への円滑な移行 	<ul style="list-style-type: none"> 地域で開催されるイベントへの、専門高校としての特性を生かした積極的な参加を実践し、その活動を新総合学科高校へ伝えることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> 市や地域で開催される催し物および学習成果の発表会に積極的に参加させた。施設・設備等のハード面の充実をはじめ新総合学科高校への円滑な移行にも取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> B
9 校内研修		<ul style="list-style-type: none"> 各領域の目標達成に向けた校内研修の充実 個人研修の共有化 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の内容・回数が適切で効果的であったか 個人研修の成果が全体のものとなったか 	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命および特別支援教育に関する全職員参加の校内研修を実施した。 総合教育センター講座等を利用して、各自の課題に対する研修を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> B B 	<ul style="list-style-type: none"> 必要性や緊急度の高い研修項目を設定し、全職員参加のもと実施する。 自らの指導力向上に向けて、各自が積極的に研修に取り組む。